

## 豪空軍との空中給油適合性確認試験の成功について

4月3日（月）から25日（火）までの間、航空自衛隊F-15と豪空軍KC-30Aは、日本海上の訓練空域において空中給油の適合性を確認しました。

本適合性確認試験は、令和4年12月の日豪外務・防衛閣僚協議（「2+2」）の共同声明における取り組みとして、試験評価部隊である飛行開発実験団により実施されたもので、空中給油は、航空自衛隊の戦闘機の運用において非常に重要な機能の一つであり、日豪の相互運用性を大きく向上させるものです。

今後、必要な手続き等を経て、航空自衛隊F-15は豪空軍KC-30Aから空中給油を受けることが可能となります。

4月27日（木）、KC-30Aは小牧基地の隊員に見送られ、豪州へ向けて離陸しました。

航空自衛隊は、引き続き、こうした取り組みを通じて、日豪関係の強化及び「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に貢献していきます。

